

Bコース進路だより



～未来に向かって歩き出そう～



不定期発行
大宮ろう学園 高等部
Bコース 進路担当 江藤
2020.12.10 発行 No. 3
sinnro@ohmiya-sd.spec.ed.jp

～重複部 進路講演会 報告～

11月27日（金）保護者向けの進路講演会がコロナ対策を行なった中として開かれました。昨年の卒業生保護者の「野崎明子」様に、子育ての中で積み上げてきたもの、進路を決めるまでの活動についてお話をいただきました。ご紹介いたします。

「卒業までに親ができること」

妊娠中に母子感染としては日本に2例しかない病気に罹る。伴う難聴、発達の遅れ、側弯等を抱えた子育て。入院手術も複数回でした。その中で、真未さんの発達の芽をとらえ、毎日母子で向き合う時間を作り、絵日記を書くことを続けることで、経験に基づいた絵を、観察したり思い出したりして描けるようになり、漢字交じりの文章をしっかりとした筆圧で上手に書けるようになりました。「私がやる家の仕事」として、「洗濯物たたみ」を毎日できるようになりました。当時まだまだ充実していなかった放課後デイ等の福祉サービスは利用せず、通学に付き添い、自宅よりも学校に近い場所でお迎えの時間まで働きました。



進路について取り組もうと思ったのは高1からで、居住地の「地域支援センター」と連絡を取り、資料を入手したり相談したりしながら、家から通える範囲の事業所をできるだけ多く見学しました。いくつか絞って、実習を積み重ねて、我が子に合ったところを見つけていきました。「悔いのないように納得するまで！」と自分を励ましながら頑張りました。大切なのは、「広げればきりがないので、ここまでしておこう！と手を打つこと。」そうしないと、もっと他にいいところがあるに違いないというループに陥ってしまい、いつまでたっても満足できず、結局時間切れになってしまう。高2のうちにここを目指そうと決め、高3では同じところで実習をして、めでたく進路決定できました。

パンフレットをみた時、見学した時、実際に実習した時では、事業所のイメージがどんどん変わっていき経験もし、「運とご縁とタイミングもあるのが進路！」と実感されたそうです。

持ってきていただいた、小さいころからの絵日記に、如実に表れている子育ての日々の積み重ねと真未さんの成長の様子、お母様手作りの「真未が知っている手話辞典」、真未さんが進路先「デイズ」で創作した「さをり織りのカバン」、日記や行事のポスターの数々は、参加された保護者の皆さんを励まし、背中を押してくださいました。

講演終了後も、保護者の皆さんにとり囲まれて（密は避けながらも）いろいろなアドバイスをされていた野崎さん。今年は学校に来るのもままならない状況にある保護者の皆さんにとって、大変意義深いひと時となったと思います。野崎さん、心打つ講演をどうもありがとうございました。

いただいたアンケートにも、「共感できた、試したい、行動したい。」等様々な感想が寄せられました。ありがとうございました。野崎さんに届けさせていただきます。